

クラシックロックの系譜

ロック音楽の誕生からビートルズへ

文教大学教授

小 倉 隆 一 郎

(2009.12.12 於：第32回ペスタロッツ祭)

ご紹介にあずかりました小倉でございます。よろしくお願いいたします。

まず、「クラシックロック」という言葉の定義ですが、普通クラシックと申しますと、モーツァルトやベートーヴェン等の「クラシック音楽」を指します。ただ、ここではクラシックロックを、「古典的なロック」あるいは「ロックの古典」という意味で使いたいと思います。

クラシックロックの年代について、何年から何年までをクラシックロックと呼ぶかという明確な定義はありません。お手元にロック誕生から80年前半までの概略図をお配りしていますのでご覧ください。(P28) 私は概略図6行目の1955年のロック誕生から、1980年代までのロック音楽を「クラシックロック」と呼んでいます。

クラシックロックの年代定義の根拠については、レコードからCDへの代替わり、すなわちメディアの交代を考えています。丁度1980年始めにCDが登場して、従来のLPレコードからCDに代わります。このメディアの交代時期を境に、新譜がLPレコードで発売されたロック音楽をクラシックロックというふうに解釈しています。すなわち1980年代始めまでのロックをクラシックロックと定義します。あと、これは根拠になるかどうか自信がありませんが、アメリカではロック専門のFM放送局が数多くあります。一部は日本のインターネット放送でも流されていますが、これらの内、クラシックロック専門の放送局の内容を聴くと、多くは今申し上げた1980年代までのロックをかけています。

今日はこのクラシックロックの約半分のところ、ビートルズが活躍する1960年代終わりまでの音楽の概要を説明するというのが主旨であります。

1 . ロック誕生以前

ロック音楽が誕生する以前には、どのような音楽が流布していたのでしょうか。1950年代に入った辺りのアメリカのポピュラー音楽界を俯瞰すると、大きく四つのジャンルに分けられます。一つはポップス、それからカントリー、カントリー&ウェスタンとも呼ばれます。そしてブルース、それとリズム&ブルースの四つです。

上の二つ、すなわちポップスとカントリーは白人の音楽でした。それから下の二つ、ブルースとリズム&ブルースは黒人の音楽です。当時、人種差別が激しい時代でしたので、音楽も白人用・黒人用に分かれていました。

最初のポップスですが、当時はフランク・シナトラやペリー・コモといったエンターティナーが活躍していました。

(ペリー・コモの「Patricia」を聴く)

こういったオーケストラをバックに温かい、やわらかい曲、家庭団欒のときにかける音楽として最適です。

それからカントリーでは、ウディ・ガスリーやピート・シーガーというアーティストがいます。ウディ・ガスリーの音を聴いてみます。

(ウディ・ガスリーの「DoReMi」を聴く)

ギターを弾き歌いするというスタイルですが、音程があいまいで、言葉をたたみかけるように歌うスタイルは、十数年後にデビューするボブ・ディランと非常によく似ています。ボブ・ディランがウディー・ガスリーを手本にしたということでしょうか。

それから次のブルースとリズム&ブルースですが、ブルースの方は B.B.キングやマディ・ウォーターズといったプレイヤーが活躍していました。B.B.キングは現在 90 歳近いと思いますが、現役で活躍しています。それでは、B.B.キングの歌とギターの演奏をビデオでご覧ください。

(B.B.キング「Caldonia」ビデオを見る)

B.B.キングの B.B.というのは「ブルース・ボーイ」という略です。独特のギターテクニックでチョーキングを多用していますが、これはギターの弦を引き上げて音程を調節するテクニックです。シンセサイザーにもチョーキングに似たピッチベンドという機能がついています。(キーボードを弾いて)ポルタメントと言いますが、連続的に音程を変化させることが可能です。このビデオは 70 歳半ばの演奏ですが、デビュー当時とは少しスタイルが違ってきて、これはほとんどジャズです。ブルース、ロックというよりはジャズに変わってきています。管楽器のビッグバンドを従えてギターを弾き、歌っています。

それからリズム&ブルースのチャック・ベリーは B.B.キングより少し遅れてデビュ

ーしています。ロックンロールの創始者のひとりということで、チャック・ベリーもまた 80 歳を越えてなお現役で活動中ということです。チョーキングを同じ音で繰り返すというのが、チャック・ベリーの特徴的なギターのテクニックです。音でいうと「ういーん、ういーん、ういーん、ういーん、ういーん」というような音を続けて演奏しています。それに、ダック・ウォークというステージ上のパフォーマンスがユニークでよく知られています。レジュメのイラストのように右足を出して左足を曲げ、腰をかがめながら、跳ぶように歩きます。今も同じスタイルでやっているとのこと。

(チャック・ベリーの「Oh Carole」ビデオを見る)

画面が暗く見づらいたと思いますが、これがダック・ウォークです。前に跳ぶだけでなく、後ろにも進めるんですね。

話を少し戻します。今、ブルース、リズム&ブルースの例でしたけれども、このような音楽を放送するラジオ番組は、当時、黒人向けのチャンネルと白人向けのチャンネルが別々にありました。そういった中で白人の子どもたちはどういう音楽を聴いていたかという、もちろん白人用のポップスやカントリーも聴いていたと思いますが、次第に白人用の音楽だけでは満足できない子どもたちが出てきました。ブルースや特に激しいリズムを使ったリズム&ブルースを聴きたいという子どもたちが多くなっていきます。ただ白人の子どもたちは表立ってリズム&ブルースは見聞き出来ないという状況は変わりません。親が許さないということですね。

一方、白人の大人はどうかといいますと、ジャズという形に変わったブルースを聴いたり演奏したりしていました。ジャズと言いながら内容はブルースであったり、リズム&ブルースに近いこともあったようです。それからクラシックの世界では、すでに 40 年程前にガーシュウィンが自分の作品のなかにジャズやブルースを取り入れています。

ですから、白人の子どもたちは、大人は黒人の音楽を普通にやっているのに「何で俺たちは黒人のリズム&ブルースを聴いちゃいけないのか」と考えるのは当然だと思いません。また、聴いてはいけないと言われると聴きたくなくなるというのが人情であります。折も折、白人用のラジオ放送で、深夜にリズム&ブルースをかける放送局が出てきました。それで子どもたちはどうしたかという、それらの番組を親の目を盗んで聴いていたということです。このように白人の子どもたちもリズム&ブルースを聴くという状況になったところで、アラン・フリードというディスク・ジョッキーが「ロックンロール・パーティ」というラジオ放送を開始します。アラン・フリードは初め、番組の名称として「リズム&ブルース・パーティ」を予定していましたが、プロデューサーに「白人用の放送局でリズム&ブルースという名称は時期尚早である。」という忠告を受け、結果、「ロックン・ロール」という言葉を考え出して番組名をつけたということです。ここで、公共の放送の場にロックン・ロール、「ロック」という言葉が初めて使われました。それが 1952 年です。

同じ年にソリッド型エレキギターが発売されています。ソリッド型というのは空洞を

持たないギターです。以前から普通のギターにマイクを仕込んだ電気ギターというのは出ていましたが、ソリッド型エレキギターは今でいうエレキギターです。ギブソン社から 1952 年、フェンダー社から 1954 年に発売されています。これでロック誕生の脇役、すなわち放送メディアにおけるリズム＆ブルースの流布と楽器がそろったということです。あとは、主役の登場を待つばかり。そしてタイミングよく、黒人音楽のリズム＆ブルースに白人が参入したことがきっかけとなって、ロックが誕生することになります。

2 . ロック誕生

ロックが誕生するには二人の大スターが関係しています。一人はビル・ヘイリーです。「Rock Around The Clock」という曲を 1955 年にヒットさせています。このときに、曲名に初めてロックという名前が登場するため、1955 年がロック誕生の年と言われています。もう一人はエルビス・プレスリーです。プレスリーは当初「黒人のように歌うことのできる白人歌手」と言われていましたが、後年はロックとカントリー＆ウェスタンを融合した独自のスタイルを作っています。

ビル・ヘイリーは「ロックン・ロールの最初で当時最大のヒット曲である」とギネスに認定されています。ところが、ビル・ヘイリーは '55 年に「Rock Around The Clock」をヒットさせたときにはすでに 30 歳になっていて、これから売り出すには年齢が少し行き過ぎているということで、音楽業界としてはもっと若いスターを求めていました。そこにエルビス・プレスリーが登場し、またたく間に世界の音楽界を席卷することになります。当時トラック運転手をしていたプレスリーは、ビル・ヘイリーがデビューした翌年 '53 年の夏、デモレコードを製作するためにメンフィスのサンレコード・スタジオを訪れます。当時、サンレコードは黒人のリズム＆ブルースを主に扱うレコード会社でした。二曲録音したところ、その録音の様子を見ていたサンレコードの社長がエルビスの才能を確信して、即契約をしました。その後は、ご承知のように、とんとん拍子で世界的なロック歌手に成長していきます。

また、エルビス・プレスリーは、メディアを上手に活用した人でありました。ひとつは一般家庭に普及する途上にあったテレビですが、積極的に出演することで人気を得ています。プレスリーが活用した今一つのメディアは EP レコードです。これは私が家から持ってきたビートルズの EP レコードです。若い方はご存じないと思いますが、ドーナツ盤とも呼ばれ、これは普通の LP レコードよりもだいぶ安い価格のため、子どもたちでもちょっとお金を貯めれば買えるというような値段でした。プレスリーはこれを若い人たちに売

ビートルズの EP レコード
(1965 年当時定価 400 円)



って人気を獲得していったということです。

バックテールというプレスリーの髪型が流行しました。これはオールバックの髪型で、1950年代後半の映画でみかけます。プレスリーのトレードマークということです。ビル・ヘイリーとプレスリーをビデオでご覧ください。

(ビル・ヘイリー「Rock Around The Clock」ビデオを見る)

明るいロックンロールですが、アイドルとして売り出すには少し無理がありました。

では続いてプレスリーをご覧ください。

(プレスリー「Ready Taddy」ビデオを見る)

曲はレジュメに書いてある「Ready Taddy」です。プレスリーのステージは腰の振り方が卑猥といわれて、PTA や教育関係者の方から非常に批判されたということです。エド・サリバン・ショー等、テレビの舞台では、腰から下は写さないという条件付きで出演しました。

プレスリーのエピソードはいろいろ多いのですが、今、グレイスランドの元自宅には自家用ジェット機コンベア 880(Convaire CV880)が、展示されているということです。クラシックの世界では、カラヤンがジェット機を所有していて、世界中を回っていたのは有名な話です。カラヤンは4、5人乗りの個人用のジェット機ですが、プレスリーは旅客機だそうです。それから元首相小泉純一郎氏が大ファンで、アメリカ訪問の際、プレスリーの自宅を訪ねています。小泉氏はプレスリーと誕生日が同じとのこと。

3.8 ビート(ロック)のリズムパターン

ここでロック音楽を音楽理論的な観点からまとめたいと思います。まずはリズムですが、8ビートを基本とします。8ビートというのは一小節に八つビートがあるということなので、音符にすれば八分音符が八つあるということです。ハイハットが一番上のリズムです。それから、次にスネアで、「ツタツタツタ…」これは、「1,2,3,4,1,2,3,4,…」2と4のところスネアが入ります。それからバスドラムが入ります。バスドラムは変形がいろいろありますが、基本的には「ドッドドッ」。それから、例えば真ん中のパートが少しリズムが変わって「ツタツタ、ツタツタ」という形に変化します。これがロックの基本的なリズムパターンです。



4 . ブルースの音階とコード進行

先ほど、ロックはリズム&ブルースから派生したと話しましたが、それではブルースの音階とはどういうものでしょうか。ブルース音階は「ド・ミ・ファ・ソ・シ」という五音音階からできています。この内、ソが になる場合もありますが、この音階でメロディーを弾くと、自然にブルースっぽい感じになります。



それから今度はコード進行ですが、表に示すような 12 小節のコードパターンが中心になります。これはリズム&ブルースの典型的なコード進行です。例えば(ピアノを弾

C	C or F	C	C
F	F	C	C
G	F	C	C

きながら)C、F、C、G、C...繰り返し出てきますが、このようにブルースの典型的なコード進行と音階を使うと、リズム&ブルースらしい音楽になるということです

次は具体的にこれらの音階とコード進行をどのようにロックに応用しているかという一例です。これは 1966 年にヒットした曲ですから、今お話している年代から 10 年くらい後になってしまいますが、「Sunshine of Your Love」というロックの名曲のテーマの部分です。



このメロディーは前に述べたブルースの五音音階でそのまま下がってくる形でつくられています。これはクリームというバンドの曲ですが、クリームのギターは、名手エリック・クラプトンです。クラプトンはまだ現役で演奏しています。クリームは '66 年にデビューしましたが '68 年に解散したので、バンドとしては二年程しか演奏していなかったこととなります。しかし、クリームは後のロックシーンに多大な影響を残しま

した。

ここにお見せするビデオは 2002 年に再結成されたときのビデオです。

(クリーム「Sunshine of Your Love」ビデオを見る)

オリジナルメンバーで、三人とも 70 歳に近い年齢です。中間部はブルースのコードパターンを倍に伸ばして、これは F にあたる部分で、ここからまた C に戻る。これが G、エリック・クラプトンのアドリブが聴きどころです。私はクラプトンのソロを聴くと津軽三味線の音を思い起こします。

5 . ロカビリーのスターと米ロックの衰退

今のクリームは 10 年ほど飛んでしまいましたが、エルビス・プレスリーの同年代と少し後に活躍した四人のアーティストをご紹介します。この時期、白人のロッカーのスタイルはロックとカントリー&ウェスタンを融合したロカビリーと呼ばれました。一人はジェリー・リー・ルイス。私はピアノが専門なので、ピアノでロックするという人に興味があり注目しました。白人のピアノ・ロックプレイヤーとしては最初の人でしょう。J.L.ルイスはピアノを足で弾いたり、ステージでピアノを燃やすというような奇抜なパフォーマンスで人気が出る一方、スキャンダルが重なって刑務所を出たり入ったりしたということです。

それから、パディー・ホリーです。彼の業績はエレキギターとベースとドラムでバンドを作って、後のロックバンド形態の模範になった点です。これ以降、ギター・ベース・ドラムのトリオにオルガンやセカンドギターをプラスするというのがロックバンドの形態になりました。それから、B.ホリーの音楽はビートルズに影響を与えたと言われています。ジョン・レノンが B.ホリーの曲をコピーして、影響を受けたと証言しています。先ほど、ギターを弾く学生さんにはおなじみのフェンダー社ストラトキャスター (Fender Stratocaster) の話をしましたが、B.ホリーはストラトキャスターを演奏する白人のミュージシャンの中でもっとも早く人気の出た人です。しかし残念ながら B.ホリーは公演旅行に行く途中の飛行機事故のため、22 歳で亡くなっています。

それでは、ジェリー・リー・ルイスと B.ホリーのビデオをご覧ください。

(ジェリー・リー・ルイス「Great Balls of Fire！」ビデオを見る)

ジェリー・リー・ルイスは今 90 歳近い高齢ですが、現役で演奏しています。この「ウィツ」という歌い方がヒーカップ唱法です。若いときの映像だと、足でピアノを弾いたり、ピアノの上に乗って上から弾いたりしています。昔のパフォーマンスの映像も残っているので、次の機会に紹介します。

(パディー・ホリー「Peggy Sue」ビデオを見る)

これは当時の映像で見難いですが、蝶ネクタイをしてロックというのがユニークです。

後ろに控えているお客さんも正装している、どういう場面なのでしょう。映像が白黒でわかりませんが、真赤なストラトキャスターだそうです。

次はジーン・ヴィンセントです。

(ジーン・ヴィンセント「Be-Bop-A-Lula」ビデオを見る)

G.ヴィンセントは、'56年に「Be-Bop-A-Lula」でデビューしています。日本では日劇のウエスタンカーニバルで、平尾昌晃さんやミッキー・カーチスさんがコピーして演奏しています。当時、私はまだ中学生でしたが、「Be-Bop-A-Lula, She's my baby...」と学校で友達と歌っていたのをよく覚えています。ここまで来ると、ギター、ベースともにエレキになっています。この時期に現代のロックバンドの形態が完成したと言えましょう。

(リトル・リチャード「Lucille」ビデオを見る)

それから、リトル・リチャードはJ.L.ルイス同様、ピアノでロックをするプレイヤーです。J.L.ルイスは白人でしたが、L.リチャードは黒人のピアノ・ロッカーで人気がありました。しかし、1960年に入って人気絶頂期に、突然、牧師になると言って、一時引退します。その後復活して、ジミ・ヘンドリックスといっしょにプレーしたり、またL.リチャードのコンサートの前座にビートルズが出演したことがありました。

激しいリズムを使っていますが、形式としては先ほどのブルースの形式をかなり忠実に守っている演奏です。

ロック誕生以来、大物アーティストが次々出てきましたが、1960年代に入ってアメリカのロック界は一時衰退してしまいます。衰退した理由は、中心的なスターがステージから去ったこととあります。プレスリーは軍隊に入って一時いなくなってしまうし、ジェリー・リー・ルイスはスキャンダルで刑務所に入れられてしまう。バディー・ホリーは飛行機事故で亡くなり、リトル・リチャードは牧師になるため一時引退します。このような状況で、アメリカからロックの火が消えそうになった時期に、イギリスから'62年にビートルズ、'63年にローリング・ストーンズがデビューします。この時期にポピュラー音楽あるいは、ロック音楽の中心はアメリカからイギリスに移りました。

6. ビートルズの登場

ビートルズについて、音楽活動の上での略歴(p.30の11右)にまとめました。'62年にデビュー、最も成功したロックバンドということでギネスに認定されています。デビューして間もなくイギリスからアメリカ、そして全世界へとブレイクしていきます。'66年には来日して武道館で三回、公演をしています。そのとき私はクラシック音楽に興味をもつ高校生でしたが、ビートルズ来日の様子はよく覚えています。政治評論家で細川隆元という方が、テレビの対談番組で「武道館という日本の神聖な武道の式場で、

ロックなどというものをやるのはけしからん」という内容の発言をしたことで、これに対して全国のビートルズ・ファンからの抗議の電話や手紙が殺到したということです。さらに勢いづいたテレビ局は夜の対談番組で特番を組んで、そこでまた若い人と細川氏との激論があったことを記憶しています。そこで、売り言葉に買い言葉だと思いますが、細川氏はビートルズのことを「こじき芸人」とか「かわらこじき」等と発言したので、後日の新聞に、イギリス大使館の関係者から、恐れ多くもエリザベス女王陛下から勲章をいただき御前演奏もしているアーティストをつかまえて「こじき芸人」とはどういうことだ、といった内容の記事がありました。

大勢の観客を集めるために武道館や野球場など、いわゆるスタジアムコンサートを開くようになったのはビートルズが最初です。ビートルズの音楽の特徴は、他のジャンルの音楽との融合、それと自作自演に徹するということでしょうか。最初の二枚のLPでは、他のアーティストの作品をコピーした数曲をプログラムに入れていましたが、以降はオリジナル作品です。また、レコーディングに際しては積極的に多重録音を行ったということです。最初は4トラックで最後の方は8トラックのテープレコーダーを使い、スタジオで作り込むタイプのバンドに変容していきました。スタジオミュージシャンになったということは反面、ライブでの活動はだんだん少なくなっていったということです。それも影響してビートルズのバンドとしての活動は、'69年には事実上解散になりました。ビートルズにはジョージ・マーティンという音楽プロデューサーが最初からついて、編曲やオーケストレーションを担当していました。ジョージ・マーティンはバンドの音楽的方向性への影響が非常に大きいということで、五人目のビートルズと呼ばれています。

7. ビートルズ 音楽の特徴

これほど世界の若者にビートルズが受け入れられた理由として、彼らの音楽の特徴を五点にまとめました。スライド (p.30 の 12) をご覧ください。

最初は、「ブルースへの回帰」です。「Love me do」というビートルズのデビュー曲を例に説明します。(パワーポイントで譜面投影) 楽譜の二段目のところにハーモニカのフレーズがありますが、(キーボードで弾く) これは先ほどの、ブルースの音階のファの音です。ナチュラルになったファの音を使用しています。お聴きください。

(「Love me do」を聴く)

今お聴きになったように、「Love me do」の歌い出しはいきなり合唱で入っています。二番目の特徴はコーラスを多用した、ということです。ロックにここまで精密な合唱を取り入れたのは、ビートルズが初めてです。合唱を多用した曲で美しいハーモニーを聴かせることはビートルズの重要な特色でしょう。

楽譜下は「Paperback writer」という曲ですが、これは最初にアカペラ、すなわち伴

奏なしのコーラスで始まります。これはユニークだと思いますが、内容はさらに先進的です。コーラスの各パートは対位法というクラシックのルネッサンス時代の様式を彷彿とさせるような、それぞれの声部が全部メロディになっていて、しかも四人が協和したコーラスで歌っています。続いて出てくる伴奏は、ファのナチュラルがブルースの音階です。

(「Paperback writer」を聴く)

三番目は斬新なコード進行の例として「Ask me why」を提示します。最初の部分のコードに注目してください。(パワーポイントに譜面投影)最初は E というコードで、次は F_m、それから次は G_m です。これは弾いてみますと、(ピアノで弾く)このような響きになります。これを平行和音といいまして、クラシックの世界では普通使ってはいけない、認められない和音の使い方です。印象派の作曲家ドビュッシーは平行和音を意図的に使っています。しかし、ドビュッシーもレ、ミと二つの平行和音を使ったら、次はファは抜かしてソに跳びます。レ、ミ、ファと三つ続けて使うことはドビュッシーもしなかったのですが、「Ask me why」は、最初に平行和音が三つ続きます。

(「Ask me why」を聴く)

「Ask me why」とは違う方法でつくられた斬新なコード進行の例は「She loves you」です。「不安定から安定へ」解決するコード進行で見事なイントロのコーラスを歌っています。まず、この曲はト長調です。ト長調の曲は大半が G か D₇ のコードから始まりますが、E_m というコードから入って A₇、A₇ の次は D を期待されますが、期待を裏切り C にいって、G で終わります。C から G というのは非常に安定した進行になるため、最初の不安定な状態から安定へ解決します。

(「She loves you」を聴く)

四番目の特徴は、ワールドミュージックを取り入れたことです。ビートルズはインド音楽、フランス音楽、それからアイルランドのケルト音楽、さらにクラシック音楽を自作の曲に取り入れています。インド音楽を取り入れた例として「Love you to」を聴いてください。これはそのままインドの楽器を使っています。「シタール」という共鳴胴として瓢箪を備えたユニークな楽器です。

(「Love you to」を聴く)

また、「Michelle」にはフランスのシャンソンの影響がみられます。

五番目には、分かり易い音楽ということです。ビートルズの音楽は幅広い年代へアピールする内容を含んでいます。例えば「Yellow submarine」は子ども用の絵本に音楽をつけたもので、後に同名の映画がつけられました。

それから最後に、偉大な単純さと書きましたが、ビートルズが事実上解散してから発表された「Let it be」という曲です。これはコードでいうと C と F と G、それから A_m が少し出てきますが、主要三和音プラスアルファで作った作品です。あれほど凝った和音を使っていたビートルズが、最後には単純なコードで分かり易い曲を作っています。

(「Let it be」を聴く)

Let it be というのは、「なるようになるさ」という意味でしょうか。歌詞に「聖母マリア」という言葉が含まれているため、「神の御心のままに」と訳す意見もあります。ビートルズは1969年に解散したので、実質活動したのは七年程です。音楽史上もっとも成功したモンスターバンドとしては短い活動期間でしたが、音楽界に残した影響は、はかりしれないものがあります。ロック音楽は、この後ハードロックやサイケデリックロック、そしてプログレッシブ・ロック等の様式に枝分かれしていきます。この枝分かれした現象は、ビートルズが多種多様の音楽をロックに取り込んだ影響とも考えられています。クラシックロックの後半は次の機会にお話できればと考えています。

今日はありがとうございました。